

2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52323	子どもの健康と安全 (Children's health and safety)	中島志保		専門	1	選択	2年前期

科目の概要

本科目は、子どもの健康の保持増進を目的とし、健康と安全の面から基礎的な知識を身に付ける。子どもの日々の健康観察と集団全体への健康支援についての方法を習得する。保育所における衛生管理・感染症対策・アレルギー対応・事故防止・安全対策について、関連するガイドラインに基づき学ぶ。また感染症対策・緊急時の対応・災害への備えについて、場面を想定し対応を身に付ける。さらに子どもの健康及び安全管理に関わる組織的な取り組みや、保健活動の計画及び評価について理解する。  
子どもの保健で学んだことを踏まえ「理論に基づく実践」を重視し保育の実践において、なぜそうなるかを理解する。

学修内容	到達目標
① 保健的観点を踏まえた保育環境及び子どもの発育と健康観察の援助について理解する。 ② 子どもの体調不良時の対応、子どもに起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生、災害への備えと危機管理について理解する。 ③ 保育所における感染症対策・アレルギー対応・事故防止及び安全対策について、関連するガイドラインなどを用いて理解する。 ④ 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状況等に即した適切な対応について理解する。 ⑤ 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び評価について理解する。	① 保育における保健的観点を踏まえた施設内外の環境、子どもの発育と健康観察の方法について述べ実践することができる。 ② 子どもの体調不良時の対応、子どもに起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生、災害への備えと危機管理について述べるができる。 ③ 保育所における感染症対策・アレルギー対応・事故防止及び安全対策について理解し行動を述べるができる。 ④ 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状況等に即した適切な対応について述べるができる。 ⑤ 健康・安全にかかわる保健活動の計画作成をし工夫した指導ができる。保育者間・他職種との連携について述べるができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	ア、毎週予習を行い、授業・演習内容を把握し授業に臨むことができる。 イ、授業後に演習のふり返しをし自己の課題を見つけ、習得のために練習をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	ア、演習のふり返し・課題は積極的に実践し提出日を守る。 イ、学んだ技術は繰り返し練習し身に付ける。
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理することで、健康観察の要点等を的確に把握する能力を身につけることができる。
	計画力	
	創造力	一人ひとり個性ある子どもの観察の仕方等、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容・情報を的確な文章で表現できる。
	傾聴力	グループワークでは、人の意見を傾聴し、さらに自分の意見を述べるができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	ア、遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 イ、授業終了時は、机上の消しゴムなどのゴミや演習で使用した物品をグループで協力して片付け、整理整頓して終わることができる。 ウ、欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全」 編著者：鈴木美枝子 創成社 ￥2,500＋税  
参考文献：「保育所保育指針」「保育所における感染症対策ガイドライン」「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：子どもの保健  
資格との関連：保育士（准学校心理士）

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの保健で学んだことを復習しておくこと。</li> <li>・テキスト・資料・関連するガイドラインを用い、毎週予習・復習を必ず実施する。</li> <li>・日頃から母子保健に関心を持ち、新聞やニュース等を通し子どもの健康問題、子育てに関心を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席は指定です。授業開始時間には着席し授業に臨んでください。</li> <li>・演習内容により、身だしなみを整える必要があります。エプロンの着用、髪をまとめる、アクセサリ類・時計を外すなど、保育者として望ましい服装で参加してください。必要時説明します。</li> <li>・携帯電話は電源を切り、カバンにしまっておくこと。演習中の撮影は禁止とします。</li> <li>・演習は保育の現場を意識し「実際の乳幼児だったら」という意識を忘れずに臨んでください。</li> <li>・課題は授業開始前に必ず提出する。</li> <li>・欠席した場合、各自配布資料を取りにくること。配布資料は予備がないため、紛失などした場合は他の学生からコピーをしてください。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標			各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓		到達目標①②③④⑤に対応した基礎的な知識を問う問題と事例問題を出題し評価する。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト	10	①	✓		・授業内容についての小テストを9回実施する。小テストの点数を平均して評価する。 ①授業・演習内容を理解しているかを確認する。 ②穴埋め問題を出題する。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
		レポート	20	①	✓		・子どもの健康の保持増進、安全で健やかな成長・発達を促すための保健活動と健康支援を具体的に考えているかを評価する。課題の提出は授業計画に提示。 ①「体調不良時の対応」（事例）観察内容・症状別対応・保育者間の連携（報告・連携）集団生活における対策をまとめる ②「身体計測・発育評価」（事例）計測結果から発育を評価する ③「事故防止・安全対策」自宅での危険箇所とその根拠及び対策をまとめる ④「生活習慣確立への支援」テーマを選び子どもへの支援をまとめる ⑤「ほけんだより」作成 ・演習実践後のふり回りと自己の課題をまとめているかを評価する。 「手指衛生」「バイタルサイン測定」「救急蘇生」「アレルギー対応」「災害への備え」
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		（主体性） ・毎週予習を行い、授業・演習内容を把握し授業に臨むことができる。 ・授業後に演習のふり回りをし自己の課題を見つけ、習得のために練習をすることができる。 （実行力） ・演習のふり回りと課題は積極的に実践し提出日を守る。 ・学んだ技術は繰り返し練習し身に付ける。 （課題発見力） ・思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理することで、健康観察の要点等を的確に把握する能力を身につける。 （創造力） ・一人ひとりが個性ある子どもの観察の仕方等、固定概念に捉われないことなどいろいろな方向から考えることができる。 （発信力） ・整理した内容・情報を、的確な文章で表現できる。 （傾聴力） ・グループワークで、人の意見を傾聴し、さらに自分の意見を述べることができる。 （規律性） ・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 ・授業終了時は、机上の消しゴムなどのゴミや演習で使用した物品をグループで協力して片付け、整理整頓して終えることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・保育における保健的観点を踏まえた施設内外の環境について述べるができる。子どもの発育と健康観察について事例を用い説明することができる。</p> <p>・子どもの体調不良時の対応について事例を用い説明することができる。子どもに起こりやすい事故の特徴と応急処置、救急蘇生、危機管理・災害への備えについて具体的に説明することができる。</p> <p>・保育所における感染症対策・アレルギー対応・事故防止及び安全対策について、ガイドラインを理解し適切な対応を説明することができる。また事例を用い行動を説明することができる。</p> <p>・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状況等に即した適切な対応について説明でき、また安全を考え行動できる。</p> <p>・健康・安全にかかわる保健活動の計画作成をし工夫した指導ができる。保育者間・他職種との連携について説明することができる。</p> <p>総合評価90点以上はS（秀）、89～80点はA（優）とする</p>	<p>・保育における保健的観点を踏まえた施設内外の環境について述べるができる。身体計測のポイントと健康観察の項目を挙げるができる。</p> <p>・子どもの体調不良時の対応についてポイントを挙げるができる。子どもに起こりやすい事故の特徴と応急処置、救急蘇生、危機管理・災害への備えについて説明することができる。</p> <p>・保育所における感染症対策・アレルギー対応・事故防止及び安全対策について、ガイドラインを理解し対応を説明することができる。また事例を用い行動のポイントを挙げるができる。</p> <p>・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状況等に即した適切な対応について安全を考え行動できる。</p> <p>・健康・安全にかかわる保健活動の計画作成をし工夫した指導ができる。保育者間・他職種との連携について説明することができる。</p> <p>総合評価79～70点はB（良）、69～60点はC（可）とする</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 保健的観点を踏まえた保育環境と援助 ・子どもの健康と保育の環境を理解する。 ・子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理について理解する。 ・子どものバイタルサイン（体温・呼吸・脈拍）測定と健康観察について理解する。	講義 演習：体温・呼吸・脈拍の測定	・子どもの健康を守るために必要な保育環境について述べるができる。 ・バイタルサインの正しい測定方法を述べることができる。体温を正しく測定できる。	（予習）子どもの体温の特徴と体温計の種類について調べる。 （復習）①子どもの健康を守るために必要な保育環境について整理する。②体温を正しい方法で測定し、ふり返りにまとめる。バイタルサインの正しい測定方法と観察項目を覚える。（①②次回小テスト）	45	主体性 実行力
2	保育環境・衛生管理 ・主な環境衛生の基準・施設内外の衛生管理について理解する。 ・手指衛生（手洗い・手指消毒）について理解し実践する。	・1週の小テストおよびフィードバック、「バイタルサイン測定」のふり返りを提出 ・講義・DVD視聴 ・演習：手指衛生（手洗い・手指消毒）※身だしなみを整えること	・環境衛生の基準について述べるができる。 ・消毒薬を挙げるができる。遊具の消毒について説明することができる。 ・手洗い・手指消毒が効果的に実践できる。	（予習）日頃の手洗いをスマートフォンで撮影する。 （復習）①「保育所における感染症対策ガイドライン」の衛生管理を読む。保育環境・衛生管理について覚える。（次回小テスト）②演習における手指衛生と日頃の手技を比較し自己の課題をまとめる（ふり返り）	45	主体性 実行力
3	子どもの成長発達の特徴と評価 ・乳幼児の身体計測について理解し安全に配慮し実践する。 ・発育評価について理解する。	・2週の小テストおよびフィードバック、「手指衛生」のふり返りを提出 ・講義 ・演習：身体計測、（事例）発育評価 ※身だしなみを整えること	・乳幼児の身体計測の方法を述べることができる。 ・カウプ指数を計算し、判定表にて結果を判定できる。	（予習）自分の母子健康手帳を見て、発育の経過を知る。 （復習）①事例「身体計測・発育評価」をふり返りまとめる。次回提出。②身体計測の方法・発育評価について覚える。（次回小テスト）	45	主体性 課題発見力 規律性
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応① ・体調不良時（発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛・けいれん・脱水）における観察・対応について理解する。	・3週の小テストおよびフィードバック、事例「身体計測・発育評価」を提出 ・講義 ・演習：事例「体調不良等に対する適切な対応」	・体調不良時の子どもの観察項目を挙げるができる。 ・症状別対応のポイントを挙げることができる。	（予習）「保育所における感染症対策ガイドライン」子どもの健康観察・症状別対応を読む。 （復習）①症状別対応を覚える。（次回小テスト）②事例「体調不良等に対する適切な対応」を完成させる。次回提出。	45	主体性 課題発見力 創造力
5	子どもの体調不良等に対する適切な対応② ・主なケガ等（傷・出血・骨折・鼻出血・火傷・熱中症など）における対応について理解する。	・4週の小テストおよびフィードバック、事例「体調不良等に対する適切な対応」を提出 ・講義 ・演習：三角巾の取り扱い ※身だしなみを整えること	・応急手当の基本を述べることができる。	（予習）自分が体験した火傷、鼻出血、熱中症等について原因、状況と対処を年齢とともに書き出す。 （復習）①応急手当・応急処置のポイントを覚える。（次回小テスト）	45	主体性 実行力 規律性
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応③ ・乳幼児の救急蘇生法について理解する。 ・乳幼児の気道異物除去法について理解する。	・5週の小テストおよびフィードバック ・講義 ・演習：事例「心肺停止の子どもを発見した際の対応」グループワーク	・乳幼児の心肺蘇生法のポイントを述べることができる。 ・乳幼児の気道異物除去法のポイントを述べることができる。	（予習）乳幼児の救急蘇生についてテキストを読む。 （復習）①乳幼児の救急蘇生法・気道異物除去法のポイントを覚える。（次回小テスト）②演習を通し、保育者間の連携についてまとめる。次回提出。	45	主体性 課題発見力 規律性
7	感染症対策 ・感染症の集団発生の予防について理解する。 ・個人防護具の安全な着脱について理解する。 ・感染性嘔吐物の処理について理解する。	・6週の小テストおよびフィードバック、「救急蘇生：保育者間の連携」提出 ・講義 ・演習：エプロンの作成、個人防護具（エプロン・手袋）の着脱 ※身だしなみを整えること	・感染経路と予防策について述べることができる。 ・個人防護具の着脱が安全に実施できる。	（予習）「保育所における感染症対策ガイドライン」感染症成立の三大要因と対策を読む。 ※使い捨てエプロン作成にあたり大きなごみ袋（45～70ℓ）、はさみ、メジャー、油性ペンを持参する。 （復習）①感染症の予防、個人防護具の着脱、嘔吐物の処理についてポイントを覚える。（次回小テスト）	45	主体性 実行力 傾聴力
8	個別的な配慮を要する子どもへの対応 ・アナフィラキシー発現時における対応について理解する。 ・エピペンの取り扱いについて理解する。	・7週の小テストおよびフィードバック ・講義 ・演習：エピペン取り扱い、事例「アナフィラキシー発現時の対応」	・アナフィラキシー・アナフィラキシーショックの症状について述べることができる。 ・アナフィラキシー発現時における対応の流れを述べるができる。	（予習）「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の食物アレルギー・アナフィラキシーについて読む。 （復習）①アナフィラキシー発現時の対応とエピペンの取り扱いについて覚える。（次回小テスト）②事例「アナフィラキシー発現時の対応」をまとめ、演習をふり返る。次回提出。	45	主体性 創造力 発信力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	保育における保健的対応 ・養護技術（乳児の抱き方・抱き下ろし方・おんぶ）について理解する。	・8週の小テストおよびフィードバック、事例「アナフィラキシー発現時の対応」提出 ・講義 ・演習：乳児の抱き方・抱き下ろし方・おんぶを体験する ※身だしなみを整えること	・乳児の特徴と発達に合った抱き方と注意点を説明することができる。 ・乳児を安全に抱っこ・おんぶできる。	（予習）乳児の抱き方についてテキストを読み理解する。 （復習）乳児の特徴と発達に合った抱き方・抱き下ろし方・おんぶについて整理し練習する。（次回グループ代表者が抱き方を実施）	45	主体性 実行力 規律性
10	保育における保健的対応 ・基本的生活習慣確立への支援について理解し、子どもに向けた保健指導の教材を作成する。	・グループ代表者「乳児の抱き方」実施し安全な抱き方を確認 ※身だしなみを整えること ・講義 ・演習：基本的生活習慣（手洗い・うがい・歯みがき）からテーマを決め、教材を作成	・基本的生活習慣の内容と確立への支援について述べるができる。	（予習）保健指導のテーマを決め、教材作成の資料を準備する。 （復習）教材を完成させる。	45	主体性 課題発見力 発信力
11	保育における保健的対応 ・作成した教材を用い、基本的生活習慣確立への支援を発表する。	・グループワーク ※身だしなみを整えること ・授業終了後に作品を提出	・基本的生活習慣確立にむけた保健指導が実施できる。	（予習）発表の練習を行う。 （復習）基本的生活習慣確立への支援について整理する。	45	主体性 傾聴力
12	事故防止と安全管理 ・子どもの発達・特性と事故の特徴を理解する。 ・保育中の事故防止の取り組みと施設内外の安全管理について理解する。	・講義 ・演習：保育室・園庭における危険箇所を発見する	・子どもの発達と事故の特徴について述べるができる。 ・睡眠中の安全、プール活動・水遊びの安全、誤飲・誤嚥・窒息事故防止のポイントを挙げるができる。	（予習）発達段階の怪我や事故について調べる。 （復習）①「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」保育中の事故防止の取り組みについて整理する。 （次回小テスト）②自宅での危険箇所を発見し、その対策についてまとめる。次回提出。	45	主体性 課題発見力
13	災害への備えと危機管理 ・危機管理と災害への備えについて整理する。 ・災害時の対応について整理する。	・12週の小テストおよびフィードバック、課題提出 ・講義 ・演習：「保育中に地震が発生した際の対応」	・子どもの保育時の危機管理を理解できる。 ・災害発生時の対応・対策について理解できる。	（予習）保育所の「防災グッズ」に何が必要か書き出す。 （復習）災害発生時の対応について整理する。演習をまとめる。次回提出。	45	主体性 発信力 傾聴力
14	保育における保健活動の計画及び評価 ・保育における保健活動と年間保健計画の立案及び評価について理解する。 ・「ほけんだより」作成ポイントについて理解する。	・13週演習のふり返りを提出 ・講義 ・演習：保健活動の年間計画、「ほけんだより」作成	・月・季節に合った保健活動を挙げるができる。 ・季節に合った「ほけんだより」が作成できる。	（予習）「ほけんだより」作成の資料を準備する。 （復習）「ほけんだより」を完成させて、次回提出。	45	主体性 創造力 発信力
15	保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携 ・保健活動における職員間の連携・協働について理解する。 ・家庭・専門機関・地域との連携について理解する。	・講義 ・ほけんだよりの発表（提出）	・保健活動に関わる他職種とその役割について述べるができる。 ・家庭との連携について述べることができる。	（予習）保育所での保健活動に関わる職種について書き出す。 （復習）保育所における職員間の連携、家庭との連携、専門機関・関係機関等の役割について整理する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力